製に人し特に本 八岐「し別し剤 品品拾烈薬し製ては 艮 錢なを艶貳如近 →特る用美劑何時 1別特ひのを程佛!

製効て容用色國 軒東分を奏貌ゆ黑 町京青覺効とれるリ 拾市圓ゆななば男ス 九神五眞さる忽女貴 番田拾に人をちに紳 地五錢奇は確肉て淑 効速証體も女

題にする 著本业系 の劑上 確を種 證試々 新み雑石行 劑見多 0 價よの に 發 は 服色 を 並前 自

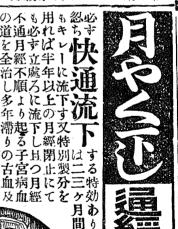
明發僞効意確ら習の今營造速 質ざ手管回業法造 傳の 者偽本 る續業披者は法 摘者露の気酢 その人 為有增造 をて拾益 町京くるを入送望萬案法法 治市と奸美」との部内味新 九神勿者みくのす方限 8 番田れ顯近べ秘速はり は時き訣に郵 右造古 地五:

常れ當大な見券4111. た館金りよ四がい り廣儲品營錢人 以 有告あツ業相 造香幣敗明釀貳 深せをく日込 次 上家竄法酒新造 確利も 注怪證用缺第及す及葡 せく直前酒び萄味し しき よべに記造請酒淋法 て無注驚か傳載家賣速酒 h

古宮の止製

す

樂似拾拾安る小司石の不も用も忽必 房偽餞錢心も劑元ご道通必れキちず 一葉注動し毫は を月ずばい の顯意剤でも其 全經立半1 名は 分試備奏 三 治不處年に 義る本意築生効力に順ろ以流力 に用剤園も無極か多」に上下 注葉の廿れ害め 111年 5流のすびに 目者大錢價なてとを滯起下月又 は盛參はり峻確一り 購深を劑壹帰烈證掃の子且閉別は 求く羨分劑人顯す あ注み壹分諸著但る血病月に分三特 ら意近圓七君なして及血經てをケ効 んあ時七 とり續拾をて々錢 て々錢 一怪特 人事し別 賣き製 元無分 日効貳 新の間 館順參



明奇

た冬 る劑 月如宮を本 月分 經何を痛劑 經を 閉程害めば に用 止長せず胃 てれるさず子腹

滯本

り剤

貳以刻治りもに醫 藥上送分速 て漿 樂青に北万賈 子す圓試言薬 白 し用固を 軒東必劇脫、人流 町京ず烈せ 🕕 せ 拾市二のよ憂し 九神割慢價な决如 番田増性はきし何

地五の症脛廿て程 (症臭腋) 事根症世再頑 治根紀發固 話分治的或劇 献分改は烈り 圓六度他の一種 **全**州拾根病慢 銭銭治に性

着重新變わ 金症樂ずる 金圧樂するでは、即根なるが多に

と 人 婦) (號一十第卷參第 % ど子 (行發日五回一月毎) 行發日五月一十年六十三治明)

明明 治治 == ++ 四四 年年 ___ 月月 世六 八 日日 第內 Ξ 種務 郵 便省 物許

泌

可可



るな該りはてちのし即歌し從るら部生し にる科以實檢眞みてち集て來のに省徒た版博てる行 足良のてに定のに許毅は世文榮其の用る發し非唱以 る書教本本を教し可師皆に部を眞檢教本行僅常歌來 べた授書書經科でせの悉刊省得價定師書の々な敎唯 しる上か其た用生ら参く行檢たをを用は盛數る科 か最如嚆る書徒れ考敦せ定り發經共今運月大用の を完何矢もと用た書師る濟 輝てに回に間喝書完 知全にたのし即ると用唱と す更文其會に来と全

鼓

學金

校貳

用拾

組以

拾上

笛

金壹圓

以

Ŀ

叄

圓

參金

拾圓

迄五

各錢

種上

拾

以

-圓

10 レ右

20

卜外

其兩

各風樂琴

洋

喬

I

樂モ

附二

麗カ

各コ

種ラ

ジ 3

品

オピ

NP

ガノ

附錢

)保)保

以定

上價

金金

貮拾

百六

圓圓

迄五

拾

郵稅

册に就き金四

തര

錢 卆 全教 生 0 四徒 四師 冊用 嚆

四三二一四三 卷卷卷卷卷卷卷卷 僧假僧僧假假假慣 金仓金仓金金金仓 干干干干兰兰兰 八八五五十十十 经线线链线线线线

舶鈴 來木品製 ヮ

IJ

迄ル四太 ネ圓鼓 ッ以金 ト上貳 ト他圓

間コ金大

八金 圓五 以圓 上以 百上 器 五五. 等。本 拾拾 /鼓 圓圓 迄迄 、圓 湏 拾テ半

圓ナ以

以1

各各 種種

圓以 迄上 各

種

武金

千百

圓

(ヨキ號略信電) 番九廿百五橋新話電ノ口イイライ